

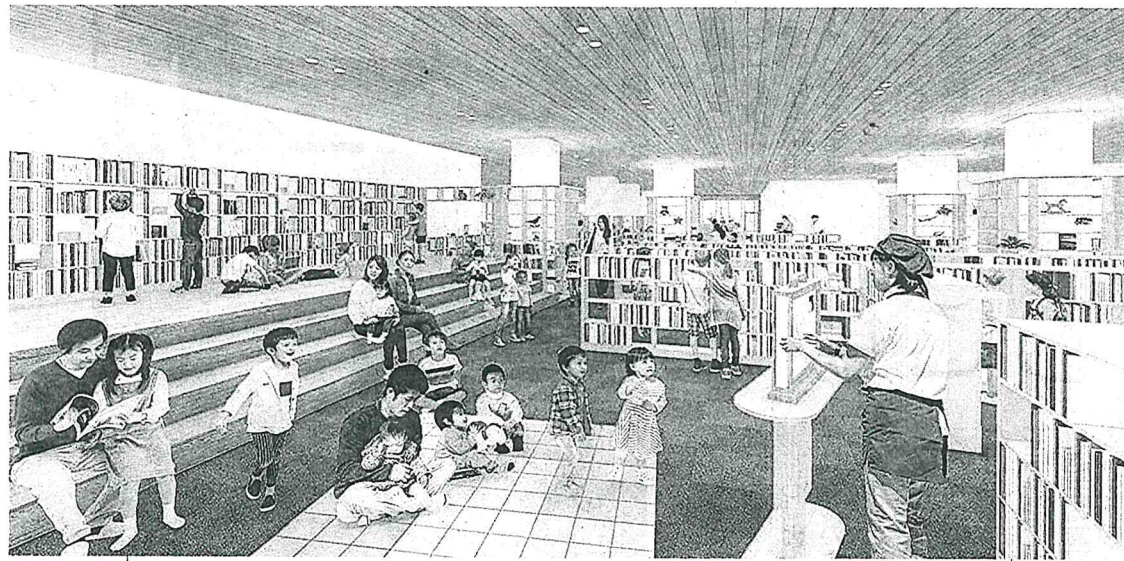
新宮前市民館・図書館の検討 市教委報告

東京 2. 6. 31

川崎市教育委員会は28日、宮前区役所とともに東急田園都市線鷺沼駅周辺に移転予定の新しい宮前市民館・図書館の検討状況を、市議会文教委員会で報告した。高層ビルの商業エリアから気軽に市民館・図書館に立ち寄ることができる空間づくりを目指すとしている。

(北條香子)

同駅周辺では、東急(東京都 開発組合が、地上32階の「駅前(渋谷区)」などがつくる市街地再 街区」と同19階の「北街区」の



新宮前図書館の児童書架エリアのイメージ (市教委提供)

児童エリア 読み聞かせイベントも

2棟の高層ビルを建てる計画を進めている。駅前街区の3、5階には図書館と市民館の大ホールや会議室など、北街区4階には小ホールが入る方針。

市民館・図書館のメインエンタランスは駅前街区3階の商業エリアの一角に配置し、買い物客らが足を止めて参加できるミニコンサートなどの開催も検討。イベントがない時は図書館のおすすめの本を並べたり、読書や学習、飲食に使えるいすを設けたりする。

4階の児童書架エリアには段差を設け、読み聞かせなどのイベントで客席代わりにもすることも検討。にぎやかな3、4階に対し、5階はサイレントルームを設けるなど、静かな環境で読書や学習ができるようにする。市民館の体育室やスタジオはガラス張り、図書館利用者にも市民館の活動が見えるようにする。

矢沢孝雄議員(自民)が「図書館で本を読んでいる人にとって、ガラス張りで市民館の活動が見えるのは、防音が優れていても視覚的にうるさいのでは」と懸念を示したのに対し、市教委の担当者は「他都市でも市民館と図書館の融合の例はあり、クレームは少ない」と説明。図書館には閉架書庫を設けず、蔵書数は17万冊程度を予定しているとした。

内装工事は約99億円と算定。小ホールを除き、2032年度の利用開始を予定している。